

和歌山病院での実習を終えて



和田 嘉允

今回、呼吸器内科の実習で、4月24日及び25日の二日間、独立行政法人国立病院機構和歌山病院にて実習をさせていただきました。和歌山病院は和歌山県下で唯一の結核病棟を有する病院と聞いていたので、結核病棟がどのようなものか、またそこでどのような実習ができるのか楽しみにしていました。まずその結核病棟ですが、確かに隔離病棟で二重扉に隔てられていましたが、想像よりも行き来しやすく自由度が高い印象を受けました。さらに病棟内は陰圧になっていて病棟外に空気がもれないような仕組みになっていることを知ることができました。

また、病棟の見学以外に様々なセミナーを受けさせていただきました。その中でも最も強く記憶に残っているのが、南方院長によるX線の読み方のセミナーです。これまではX線を見るときは、ある疾患にはこういう名前の影ができる、というような覚え方をしており、それが覚えづらく苦手意識を持っていました。しかし南方院長のセミナーでは、X線の仕組み、X線像に対する考え方を教えていただき、これまでの教科書を読むだけでは分かりづらい内容が理解できるようになりました。今回教えていただいたX線の読み方をこれからの実習で活かしていきたいと思いました。

最後になりますが、今回実習させて頂いた和歌山病院の皆さま、本当にありがとうございました。